

2015年7月29日

研究推進費による研究成果の提出について

野田春美

1) 以下の研究成果については、市販のテキストの解説を含むため、内容の公表は差し控えたい。表紙の pdf. を添付する。

2003年度 研究課題

大学生対象の新しい文章表現教育に関する実証的研究

2004年度 研究課題

大学生対象のアカデミック・ライティング教育に関する実証的研究」(同上)

2005年度 研究課題

大学生対象の効果的な文章表現教育に関する実証的研究

一習熟度測定法の検討と教材作成を中心に一

上記3課題の研究成果

『日本語を書くトレーニング』を用いた授業の実践報告

報告書の性質、概要について、以下、報告書から抜粋する。

[本報告書の性質]

本報告書は、科目担当者によるきわめて具体的な感想、発見、工夫などの情報に満ちたものであり、大学における文章表現教育の担当者にとって、特に『日本語を書くトレーニング』を用いた授業の担当者にとって、有益なものであると考えている。しかし、『日本語を書くトレーニング』は、解答や解説をあえてつけず、学生に自主的に考えさせることに重きをおいたテキストである。したがって、本報告書は限定した配付とせざるをえない。(p.2)

注)『日本語を書くトレーニング』(野田尚史・森口稔, ひつじ書房, 2003)

[ヒント集作成の経過]

『日本語を書くトレーニング』の各トレーニングでは、さまざまな意図に基づいて課題が示されている。テキストを効果的に使用するためには、教員の側もその意図を理解し、指導のポイントを具体化する必要がある。また、3. で取り上げた、少人数クラスやグループワークの問題点にも配慮しながら、それらの利点を生かした指導を心がける必要がある。

そのため、担当教員は独自に工夫をするとともに、話し合いを重ね、指導の際の要点を具体化し、共有するよう努めてきた。5. のヒント集の内容は、そういった実践と議論に基づくものである。まだ模索の段階であり、テキストの性質上、使用法に関する明確な答えはない。5. の内容は、のべ12人の教員が3年間の実践を通じて得たヒントである。(p.7)

注) 3. 【第1部 概要】内、「3. 科目「文章表現の方法」の特徴と課題」

5. 【第2部 授業のためのヒント集】内、「5. ヒント集」

2) 以下の3点の研究成果については、修正したものを出版する予定(2016)があるため、内容の公表は差し控えたい。表紙のpdfのみ提出する。

2013年度 研究課題

大学生を対象としたグループワークによる文章表現テキスト作成のための研究

研究成果

『グループワークで日本語表現力アップ 第I部』(2014年度試行版)

2014年度 研究課題

グループワークを生かしたアカデミック・ライティングのテキスト作成のための研究

研究成果

『グループワークで日本語表現力アップ 第II部』(2014年度試行版)

『グループワークで日本語表現力アップ』(2015年度試行版)